

自死遺族によるネット座談会

「スーカフェラジオ」のご案内

他団体からのご案内です。

以下のように「スーカフェラジオ」として、自死遺族によるネット上での座談会が行われます。よろしければお聞きください。

日時:原則 偶数月の土曜日 14:00-15:00

対象:大切な方を自死で亡くされた方、自死遺族支援に関心のある方(18歳以上)

主催:スーカフェ名古屋 (<https://twitter.com/sucafe758>)

参加方法:Zoomウェビナー使用

事前申し込み不要。

当日ニックネームとメールアドレスをお知らせください。

※日程、参加方法などは上記「スーカフェ名古屋」Twitterページをご覧ください。

各種相談先のご案内

行政、民間で、自死の遺族向けに相談を行っているところがあります。また、「こんな相談先はないでしょうか？」など、ご不明なことがあれば、会の者にお尋ねください。

自死遺族向け面接相談(無料)

○愛知県精神保健福祉センター

要予約 052-962-5377

毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

○名古屋市精神保健福祉センターこころば

要予約 052-483-2095

毎月第3火曜日 午前10時-12時

法的なことでの相談

○全国自死遺族法律相談ホットライン

電話番号: 050-5526-1044

受付時間: 毎週水曜日(祝日を除く) 12時から15時まで

自死遺族支援弁護士

<http://www.jishiizoku-law.org/>

自死遺族向け電話相談(無料)のご案内

自死遺族を支援するNPO法人「アフター・ザ・レイン」(名古屋市)による電話相談
<https://aftertherain-japan.org/>

夜間電話相談: 毎週火曜日 22時から翌朝4時まで。 0570-017-222

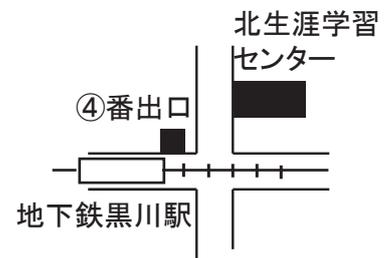
-感染への不安を減らすため、ご協力をお願いします-

- ・アルコールでの手の消毒など(アルコールは準備します)。
- ・マスクをお願いします(予備は受付で準備します)。
- ・トーキングスティック(話す人が合図として持つもの)を使わない形で行います。
- ・大きめの輪か、できるだけ弧に近い形にします。
- ・お茶など飲み物は各自ご持参ください。

次回の遺族会

第108回

2月27日(日) 13:15から
名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ
参加費:500円



その次は...

第109回 4月24日(日)

※状況によっては中止・変更になる場合があります。直前にご確認ください。

日程は、ホームページまたは、電話案内でご確認いただけます。

パソコンの方

<http://will.obi.ne.jp/remember/>

携帯電話の方

<http://www.will.obi.ne.jp/m/>

電話案内(録音でのご案内)

090-8544-9408

新聞郵送をご希望の方へ

1月~6月末までのお申し込み(前期) ... 1000円

7月~12月末までのお申し込み(後期) ... 500円

詳しくはスタッフまで

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。
詳しくはお問い合わせください。

近隣の遺族会のご案内

以下中止・延期の場合もありますので、直前にご確認の上、お出かけください。

次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、遺族会「ディアレスト (Dearest)」が開催されています。今回はオンライン(Zoom)での開催になります。

日時：2022年3月27日(日) 14:00 - 15:30

対象：家族以外の大切な人(恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など)を自死(自殺)で亡くされた方

連絡先：the.dearest1@gmail.com

<http://dearest.heyajp>

次回「～こころの居場所～AICHI自死遺族支援室」のご案内

今回の自死遺族の分かち合いの会などの日程は、ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

連絡先：cocoroibasyo@yahoo.co.jp

090-4447-1840 <http://cocoroibasyo.org/>

次回「いっぷく処」のご案内

さまざまな宗派の僧侶の方が集った「いのちに向き合う宗教者の会」による、自死遺族のわかちあい「いっぷく処」ですが、今回は未定となっています。

また、「いっぷく処 お便り」として、会の担当の僧侶との文通によるやり取りを行っておられます。

次回の予定、文通方法など、詳しくは下記までお問い合わせください。

主催：いのちに向き合う宗教者の会

連絡先：info@inochi.in <http://inochi.in/>

その他、近隣の自死遺族のわかち合いの会

岐阜「千の風の会」…

問い合わせ：岐阜県精神保健福祉センター

058-231-9774

三重「わかちあいの会」…

問い合わせ：三重県こころの健康センター

059-253-7821

浜松「浜松わかちあいの会」…

問い合わせ：浜松市精神保健福祉センター

053-457-2709

その他、全国に自死遺族の分かち合いの会があります。

詳しくはお問合せください。

りめんばー

先日のテレビ(ETV特集)で、「子どもの自死」という番組がありました。録画したものを、恐る恐る、後から見たのですが、詩人・谷川俊太郎さんが子どもの自死について書いた絵本「ぼく」が出来あがるまでの過程を描いた番組でした。

ぼくはしんだ。じぶんでしんだ。

ひとりでしんだ。

で始まる絵本、もう、この言葉だけで涙があふれてしまいます。

構想から2年以上をかけて作り上げられた絵本の、その多くの時間は、絵を決めていくために使われていました。谷川さんの詩に合わせた、というよりも、詩と共になって表現しようとした画家とのやりとりの中で、谷川さん自身の自死への思いが深められていくようでした。

「自死に理由はない」と言う谷川さん。それは単純なわかりやすい理由はないという意味だと感じました。画家が孤独感や、寂しさを強調する絵を描こうとすると、それに修正を依頼したりするなど、固定的な、ありきたりの理由に収めようとせず、自死の、ひいては人間の存在そのものに迫ろうとされているのが印象的でした。

あおぞらきれいだった。

おにぎりおいしかった。

「ぼく」の短かった人生は、どんなものだったのか。遺されたものは、単純に「楽しかった」とか「つらかった」ではなく、死をも含んだ人生すべてを単純化せず、そのまま受け止めるしかないのでしょう。「自分が書いたものをわかってもらわないようにする。」と谷川さんが言われたように、亡くなった者も、自死も、その人生も、「わかって」しまっただけはいけないのかもしれない。(KN)